



# 田留 健介

たどめ けんすけ (33歳)



## 第61次南極地域観測隊メンバーとして参加!

北本市在住の田留 健介さんが、第61次南極地域観測隊のメンバーに選ばれ、1月4日から2月17日まで南極で生物調査を行ってきました。実に30年ぶりに実施された観測隊による生物調査に参加し、南極について語りました。



厳しくも美しい氷の世界



サンプリングの様子



南極にしかない地衣類「ナンキョクスイゴケ」

### 子どもの頃から憧れ

「探検が好きだった子どもの頃に植村直己の本を読み、いつか南極に行ってみたくて思っていました。5年前、地衣類研究が専門の大学教授から南極への興味を確認され、『南極は過酷だ。死ぬかもしれないぞ』と言われたけれど、迷うことなく『チャンスがあればぜひ行きたい』と答えました。本当に行けることになり、夢が叶いました」

### 準備で歯を4本抜きました

「平成30年1月に南極観測隊への参加の打診があつてから、冬にクレバスからの脱出などの訓練、夏に南極についての講習を受け、その後正式決定しました。南極では、ほんのわずかな不安材料でも事故につながるため、虫歯になりそうな歯を4本抜き、南極行きに備えました」

### That's Antartic!

「南極は、ときどき風が吹く音がするくらいで、普段は一切音がしません。自分で音を出すと、その音が周囲に響き渡ります。空気が澄んできれいいため、吐く息は白くなりません。空の色は青というより紺色で、宇宙のイメージに近いです。また、天気はころころ変わるので、活動を予定どおりに行うことができませんでした。でも、観測隊の隊長いわく『That's Antartic!』予想できない。これが南極だ』見るもの、聞くもの、触るもの、全てに感動しました」

### 生態系の解明に期待

「私に与えられたミッションは、30年ぶりに行われることになった南極セル・ロンドーネ山地の生物調査。地衣類、コケ類を500サンプル採取してきました。」

### 興味を持つきっかけについてほしい

「自分は本を読んだことがきっかけで南極への興味を持ち、続けて南極観測隊への参加につながりました。好きなことを何か一つも持っていれば、いつか必ず役に立ちます。今回の経験を多くの人に伝えることで、自分の活動が今の子どもたちの興味を持つきっかけになってほしいです」と語りました。



終始笑顔で語る田留さん  
自然学習センター職員、  
東京農業大学学術情報課程 非常勤講師

田留さんが勤務する自然学習センターでは、特別講演「南極大陸の自然といきもの」を開催します。ぜひご参加ください。

**時** 5月6日(水・振替) 13:00~14:30

**内** 南極での観測隊の活動についての講演

**他** 5月2日(土)~10日(日)に関連ミニ展示を同時開催します。

**場 問** 自然学習センター(☎593-2891)